

# ≪ 市民に開かれた研修

○郷土守山に学ぶ研修講座

# 郷土守山に学ぶ研修講座 報告

## ○第1回 研修講座

### 1 実施日時

令和3年6月19日(土) 午前9時から正午

### 2 実施場所および研修について

講師:ほたるの森資料館 館長 真田善之 様  
並河 聡 様

研修1 場所:守山市民ホール

- ・今年の市内での発生状況
- ・ほたるマップから
- ・ほたるの生態等の説明および VTR



研修2 場所:ほたるの森資料館

- ・資料館にて本物を見て研修
- ・各ゾーンで散策



### 3 参加人数

12人

※家族連れ 三家族、大津市からの参加も。

### 4 参加者の感想から

○地元、守山に住みながらほたるに関する知識が乏しかったので、参加させていただきました。大変有意義な時間を過ごさせていただきありがとうございました。来年は、ぜひとも3月・4月に幼虫を見に来たいと思いました。(60代 男性)

○知らないホタルの世界がわかって、本当に楽しく勉強になりました。ホタルの一生がこれまで知っていた以上に神秘的で夢のような世界で感動しました。本当に良かったです。(60代 男性)

○蛍のことをそんなに知らなくて、今日の講座を聞き蛍のことがよくわかり、すごい生き方をしていることがよくわかり、水陸空に行けることを知った。(10代 男性)

### 5 成果と課題

土曜日開催としたために、家族連れでの参加をいただいたことは大変成果であったと思う。研究所の講座が、家族の会話や触れ合い、そして、学びにつながれば大変素晴らしいことと思う。反面、課題としては年齢層が広がるので、研修を工夫していく必要がある。今回も「折り紙」や記念品を入れていただくなど講師の先生に工夫をいただいた。また、事前のマイク等の機器準備はゆとりをもって行うことが必要と感じた。今回は市民ホールの小森さんに、大変お世話になった。

## ○第2回 研修講座

9月23日(木・祝) 実施予定

新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。

## ○第3回 研修講座

### 1 実施日時

令和3年10月16日(土) 午前9時から正午

### 2 実施場所および研修について

講師:玉津小津漁業協同組合

組合長 田中 善秋 様

場所:赤野井湾周辺

- ・湖底ごみの回収
- ・分別作業



### 3 参加人数

1人

※守山市教育研究所 職員参加。

### 4 参加者の感想より

大変楽しく学習できました。玉津小津漁業協同組合事務所から天神川に沿い魚船に乗せていただき、心地よい風に吹かれてラッキーでした。びわ湖の天竜川の河口で作業をさせていただきました。湖底は、きれいな砂でした。ヘドロで汚いのではと案じていましたが、うれしい誤算でした。私たち以外の漁港の方々は早くから作業をしておられ、こんな貝があったと見せていただいた貝!!はじめイケチョウガイかと言われていたのですが、三角貝??改良された貝かともいわれていました。今日の受講者が私ひとりであったため、丁寧に説明いただき、来月の研修にもぜひ参加をと言われてしまいました。教育委員会の方々も親切に接して下さりました。ただ、湖底のごみ拾いはあまりしんどくありませんでしたが、帰ってきてからのごみの分別が、大変でした。まず、砂を落とす。ホースで水をかけてしますが、袋に砂が入り込んでいてたいへんでした。(中略)



オオバナミズキンバイが回収してありました。これは外来植物で、繁殖力が強く、乾かし、小さく裁断し、燃やすそうです。葉っぱが一枚でも残っておれば、そこから伸びていくそうです。「種の糸粒も残さないようにしなければならぬ」とおっしゃっていました。(中略)



勉強してきたことが、つながっているのがうれしいです。ありがとうございました

### 5 成果と課題

赤野井湾や琵琶湖の現状を体験を通して考えてもらおうと、胴長靴を着用しての湖底ごみ回収を計画したが、一般からの参加者がわずか1名と、大変寂しい数字であった。体験してみると、参加者の感想にもあるように大変意義深いものではあったものの、一般の市民感情からすると、わざわざ休日にごみの回収作業というのは、初回としてはかなり無理があったものと思われる。

今日、環境問題は私たちが生活を営む上で素通りできない課題である。より多くの市民の皆さんに関心を持ってもらえるよう、次回からは、もう少し参加しやすい形態で企画を検討していきたい。

## ○第4回 研修講座

### 1 実施日時

令和3年11月20日(土) 午前9時から正午

### 2 実施場所および研修について

講師:守山市環境生活課長 井上 敦 様

環境コミュニケーター 武田 みゆき 様

環境センター係長 又吉 賢太郎 様

研修1 場所:もりやまエコパーク交流拠点施設

- ・琵琶湖の環境、赤野井湾の環境、守山市の環境について説明
- ・生物の多様性の説明、キーホルダーの制作

研修2 場所:もりやまエコパーク環境センター

- ・環境センターの説明

### 3 参加人数

4人 ※守山市教育研究所 職員参加。

### 4 参加者の感想

○ごみ処理の重要性を再認識しました。ありがとうございました。

○いつも大変な作業をしていただいていることに感謝しております。ごみの分別は大切だと思いました。また、機会があれば参加したいです。

○環境センター内の見学で分別の重要性を感じました。研修のキーホルダーを作成して、大変楽しかったです。

### 5 成果と課題

前回の赤野井湾の湖底ごみ回収に引き続き、参加者が4名と大変寂しい数字であった。今回は、キーホルダーの制作もお願いし、家族連れ等の参加を期待していたものの残念な結果であった。

参加者からは、「たいへん良かった」「また、参加したい」と、研修の有意義さを感じ取っていただいていたものの、より多くの市民の皆様に参加していたるように周知方法も含め、来年度に向けて検討していきたい。



#### 今年度の研修講座全般を振り返って

今年度から、できるだけ多く市民の皆様が参加しやすいように、研修講座の開催日程を従来の平日開催から土日開催へと変更をした。第1回の「ほたるの住む街 守山」では、家族連れの参加も見られ一定の成果となった。しかし、その後の、研修講座では、参加者がたいへん少なく寂しいものとなった。「環境」に焦点を当て開催したものの、胴長靴を着用しての体験など初めて参加を考える人にとっては、ハードルが高すぎた面があったものと考えられる。まずは、気軽に参加しやすい講座を開設し、多くの方に興味を持ってもらうことが大切だと感じた。また、従来からの郷土の歴史的な遺産等に焦点を当てる企画を生み出せなかったことも、参加者の選択を狭くすることにつながったものと考えられる。

今後は、年間を通した計画を早めに周知するとともに、「環境」「歴史」「文化」に視点を置き、興味を持って参加しやすい企画を工夫していきたい。